

 市場価格

ドル建て ドル/toz

Platinum	Price	Date
Open	898.25	2024/1/22
High	917.50	2024/1/26
Low	884.50	2024/1/26
Close	912.88	2024/1/26

円建て 円/グラム


Platinum	Price	Date
Open	4303.00	2024/1/22
High	4385.00	2024/1/26
Low	4221.00	2024/1/26
Close	4367.00	2024/1/26

ドル建て ドル/toz

Palladium	Price	Date
Open	951.75	2024/1/22
High	977.22	2024/1/24
Low	916.72	2024/1/22
Close	955.54	2024/1/26

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	4535.00	2024/1/22
High	4616.00	2024/1/24
Low	4362.00	2024/1/22
Close	4567.00	2024/1/26

 ニュースエクスプレス

需給トレンド、パラジウムよりもプラチナ・ロジウムより有利

プラチナ価格とパラジウム価格の変動は徐々に収斂していくだろう。

2025年に向けてファンダメンタルズは、自動車触媒の需給トレンドに変えられてプラチナの方がより良好。

ドイツ銀行リサーチのResearch metals & mining のアナリストが1月10日に発表したコモディティの見直しによると、これは世界的にガソリン車生産が減っても変わらないとしている。

PGM 市場の中では、需給のトレンドはパラジウムよりもプラチナに有利ともしている。

<https://www.miningweekly.com/article/supply-demand-trend-favours-platinum-over-palladium-deutsche-bank-research-2024-01-15>

燃料電池の需要、2027年から飛躍か

水素を使う固体高分子形(PEM)燃料電池の普及が進むのは、水電解装置の大規模化が可能になって経済性が向上する2027年以降。

こう指摘するのは燃料電池技術の先陣をいくNedstack のチーフ・コマーシャル・オフィサー、Jochum Bruinsma 氏で、同氏は15年以上も燃料電池技術に関わっている。同社に投資する投資家らは、過去にはディーゼルロータリー無停電電源装置にも投資しており、バックアップ用エンジン技術の開発には先見の明がある。

PEM 形燃料電池は元々、1960年代に米国の航空宇宙局 (NASA) によってジェミニ計画の宇宙船の電源として開発された。同計画では 1965年と1966年に二人乗りの低軌道有人衛星飛行を行った。当時はPEM 形燃料電池の材料費と製造費が高額であったため、その利用は資金が豊富なプログラムに限られたが、過去10年間で自動車だけでなくデータセンターなどのバックアップとしての利用に関心が集まっている。

Nedstack 社は需要の増加に向けて増産体制を整えている。

<https://www.datacenterdynamics.com/en/marketwatch/fuel-cells-set-to-take-off-from-2027/>

Translated by Kazuko OSAWA

ホンダとGM 次世代燃料電池システム量産開始 生産コスト3分の1

自動車メーカーのホンダとアメリカのGM＝ゼネラル・モーターズは、ことし日本とアメリカで発売する予定の燃料電池車に搭載する次世代の燃料電池システムの量産を始めたと発表した。

生産コストを従来の3分の1におさえているのが特徴で、ほかの企業にも販売していく方針である。

ホンダとGMは25日、アメリカ中西部ミシガン州デトロイト近郊にある合弁会社の工場で次世代の燃料電池システムの量産を始めたと発表した。

新たな燃料電池システムは、材料の見直しなどで生産コストを従来の3分の1まで大幅に削減したほか耐久性も2倍に高め、マイナス30度という寒さが厳しい地域でも稼働できるのが特徴だという。

ホンダは脱炭素に向けてEV＝電気自動車とともに水素事業に力を入れている。

ホンダはこのシステムを搭載したSUV＝多目的スポーツ車タイプの燃料電池車を、ことし日本とアメリカで発売する予定である。

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240126/10014335091000.html>

 WPIC直近の活動

『プラチナ四半期レポート』にて我々が見直しを発表した2024 年は現在進行形で進んでいるが、今回の『プラチナ投資のエッセンス』では 2025 年から 2027 年のプラチナ需給バランスの予測の更新、それに加えて2028 年の展望も初めて発表する。昨年続き2024 年も供給不足になる見通しだが、2025 年から2028 年も供給不足が続き、年間で平均して約 17.1 トン、需要の約 7% が不足するだろう。詳細は**プラチナ投資のエッセンス - 2024年1月号**をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/investment-research>



免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資勧誘を意図するものではありません。そのように解釈されるべきではありません。